

特別展

民藝誕生 100 年—京都が紡いだ日常の美

「民藝」と京都の関係を紐解く展覧会を京都市京セラ美術館で開催！

会期：2025 年 9 月 13 日（土）～12 月 7 日（日）



左：木喰上人《地蔵菩薩像》1801 年、日本民藝館蔵 右：黒田辰秋《根来鉄金具手箱》1930 年頃、河井寛次郎記念館蔵

思想家の柳宗悦、陶工の河井寛次郎、濱田庄司が京都に集うことで始まった「民藝」運動。木喰仏の調査旅行をするなかで議論を深め、1925 年「民衆的なる工芸＝民藝」という言葉が生まれました。（※）このたび、「民藝」という言葉が誕生して 100 年を迎えるにあたり、特別展「民藝誕生 100 年—京都が紡いだ日常の美」を開催します。

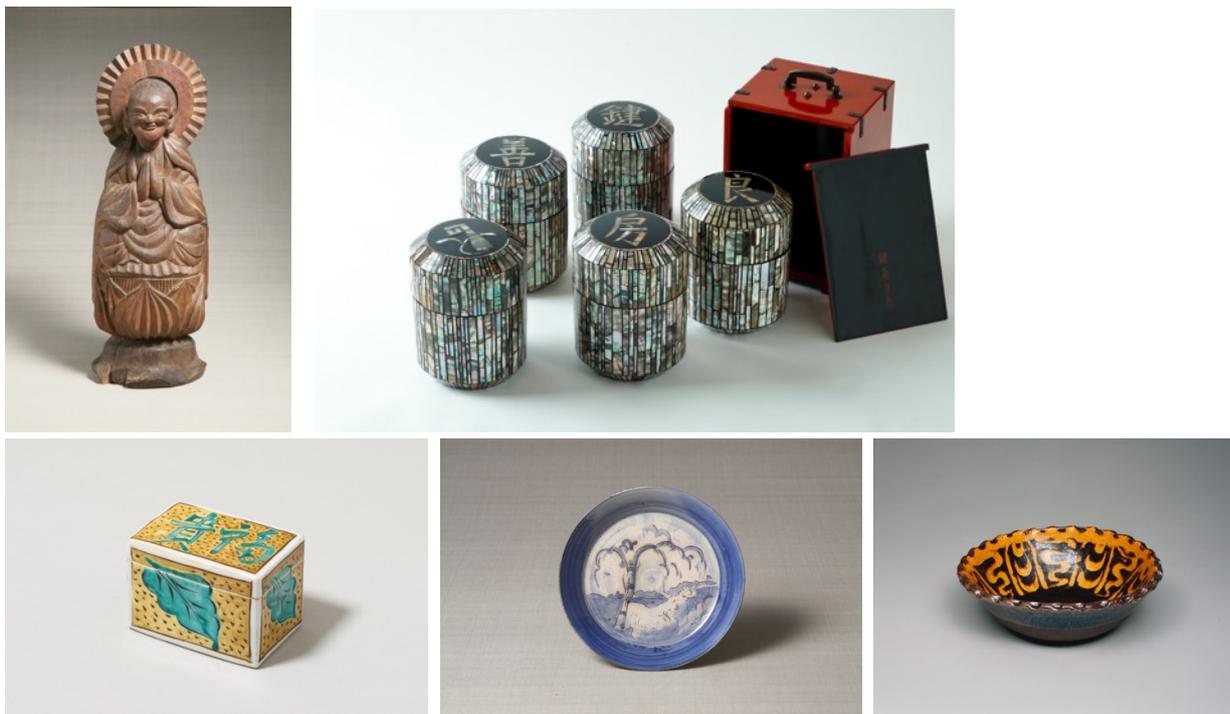
※1926 年、柳宗悦、濱田庄司、河井寛次郎、富本憲吉の連名で『日本民藝美術館設立趣意書』を発表。1936 年、日本民藝館（東京・駒場）開設。

京都と民藝の深いつながり

1923 年関東大震災で被災し、翌年に京都へ転居、約 10 年にわたって居住した柳宗悦。「民藝」という言葉はこの京都で柳らの交遊によって生まれ、彼らは京都の朝市などで雑器の蒐集を本格的に開始します。「民藝」の歩みは、明治末から大正、昭和へと社会が近代化する中で、人々の衣食住の概念を変革させていくものであり、その活動は京都から日本そして世界へと広がっていきます。100 年という節目にここ京都で、日本近代化のなかで一般大衆にも広がった民藝運動の無名性、簡潔性や単純さに美を見出す精神を考察することは、あらためて現代の暮らしや生活感情に新しい視点をもたらしてくれるでしょう。

本展のみどころ

「民藝」という言葉が誕生するきっかけとなった木喰仏を皮切りに、上加茂民藝協団で活動した黒田辰秋、青田五良の作品や、「民藝館」「三國荘」のために制作された河井寛次郎、濱田庄司、バーナード・リーチらの工芸作品、柳宗悦らによる日本全国の蒐集品や、芹沢銈介、棟方志功などの民藝関連作家の優品を展示します。また英文学者の寿岳文章、京菓子の鍵善良房、牛肉水炊きの祇園十二段家、民藝の建築を推し進めた上田恒次など京都における民藝運動の推進者や支援者をめぐる作品や資料などとあわせ、京都と民藝との関わりを総合的に紹介します。



上段) 木喰上人《地藏菩薩像》1801年 日本民藝館蔵、黒田辰秋《螺鈿くずきり用器》1932年 鍵善良房蔵 撮影：伊藤信

下段) 富本憲吉《色絵「福貴」角筥》1936年 日本民藝館蔵、バーナード・リーチ《染付樹下婦人中皿(東京麻布)》1919年 日本民藝館蔵
河井寛次郎《象嵌鉢》日本民藝館蔵

◆開催概要

タイトル：特別展「民藝誕生100年—京都が紡いだ日常の美」

会 期：2025年9月13日(土)～12月7日(日)

会 場：京都市京セラ美術館 本館 南回廊1階

開館時間：10:00～18:00(入場は17:30まで) 休 館 日：月曜日(祝日の場合は開館)

主 催：京都市、NHK京都放送局、NHKエンタープライズ近畿、毎日新聞社、京都新聞

お問い合わせ：TEL. 075-771-4334

交通案内：電車/地下鉄東西線「東山駅」から徒歩約8分、京阪電車「三条駅」から徒歩約16分 市バス/「岡崎公園 美術館・平安神宮前」下車すぐ、「岡崎公園 ロームシアター京都・みやこめっせ前」下車すぐ

【本展のプレス問合せ先】京都市京セラ美術館 広報 西谷・川口

E-mail：pr@kyoto-museum.jp 電話：075-275-4271

※内容は予告なく変更になる場合があります。あらかじめご了承ください。